



子どもたちの安全だけでなく
「元気」も見守る地域のお父さん。
今日もみんなを見守ります。



「学校が休みでない限り、見守りは毎日欠かしません。視界が悪く、交通量も増える雨の日は、特に注意深く見守ります」と力強く語る石田さん。新学期が始まる4月から5月は、小学校と連携して、道路の渡り方などの指導もするなど、熱心な姿勢はまさに「地域のお父さん」的存在です。中には見守りをしていた子が親になり、親子2世代を見守ることも。

「子どもたちの名前までは覚えていませんが、顔は覚えているので、いつもと様子が違うところはないか。元気な挨拶が返ってくるか。それだけを見とるんです」23年間、地域の子どもの心身の安全を見守り続けてきた石田さんの原動力は、子どもたちへの深い愛情と「良い荒尾にしたい」という真っ直ぐな願いです。

地域を守ってくれているみなさん、
いつもありがとうございます！

人を大事にすれば、
自分も大事に
もらえるものです。



いしだ とよきち
石田 豊吉さん

人や地域へ愛情を注ぎ
「良い荒尾」を育みたい

民生委員や大和地区の区長、老人会の会長など、さまざまな役を担っている石田豊吉さん。石田さんが「中央小学校見守り隊」を始めたのは、今から23年前のこと。福岡県庁を退職後、地域への恩返しとして、先輩の後を継ぐ形で活動を始めたそうです。以来、毎朝同じ交差点に出向き、子どもたちを見守ってくれています。

「おじちゃん、元気しとったね!？」と声をかけてくれる人もいるし、寒くて鼻水が垂れているとティッシュを差し出してくれる子もいます。子どもたちは本当に可愛いかですね。そう微笑む石田さんは、交通安全だけでなく、地域の元気の見守り隊でもあるようです。「朝の遅い時間帯にうなだれて登校しよる子には、朝ご飯は食べたか？」と声をかけます。今はプライバシーの問題もありますけど、私は毎日ここに立っていますから、迷わず声をかけます」と石田さんはキッパリ話します。

子どもたちの「今日」を守り、地域へ恩返し
中央小学校見守り隊

Interview

私たちの地域を守っている人たち

夜間パトロールで地域の安全に尽力

東屋形区一丁目

地域安全パトロール隊

20年続く夜間パトロール

地域の防犯意識に貢献

新興住宅地として東屋形地区に住宅が建ち並んだ当初に結成された「東屋形区一丁目地域安全パトロール隊」。その活動は、20年以上も続いています。「当初は、地区の名前を周囲の人に知ってほしい、地域の人々の防犯意識を高めたい、そんな思いから活動をスタートしました」と話すのは、3代目の隊長を務める濱北竹夫さんです。現在は、9人の有志の隊員とともに月に数回、21時ごろから地区内約3キロメートルの道のりの見回りを行っています。「不審なものや人はいないかはもちろん確認しますが、普段の活動で一番大事にしていることは、住民にも、通りすがりの人にも、パトロールをしている私たちの姿を見て

もらうことなんです。見られることによって、地域全体の防犯意識は高まります」と濱北さんはパトロールの大切さを教えてくれました。
ここ数年は、コロナ禍で実施できない年が続いているそうですが、毎年、年末には防災運動の一環として、地区の子どもたちとタッグを組み「火の用心」の声かけも行っていたとか。今回の取材にあたり、地域の子どもたちも来てくれて、久しぶりにみんなで集合することができました。中には、初めて法被に腕を通したという子もいて、普段はなかなかできない活動に満面の笑顔を浮かべ、意気揚々と地域のパトロールに励む姿が印象的でした。
近年は、パトロール隊員の数も減少傾向にあるとのこと、次世代を担うパトロール隊員の参画を心待ちにしています！

大人も子どもも元気で、
活力みなぎる地区です！



はまきた たけお
濱北 竹夫さん



日頃の活動の積み重ねで
地域の防犯意識を高め、
安心して暮らせるまちへ。

